



また、例会中にテストの解説も委員会メンバーで行い、珍回答が発表されるなど盛り上がる場面もありました。

第2部では、委員会ごとに尾道青年会議所の魅力とは何なの



10月16日(火)尾道国際ホテルにおいて行われた10月例会行事「オノゼミナール2018」では、会員の資質向上を目的とし、外部の講師を呼ぶのではなく、会員資質向上委員会メンバーで青年会議所メンバーに対して講師やファシリテーターとなって行う手作り例会で行いました。

例会は2部構成で行い、第1部では青年会議所実力テストを行い、普段の雰囲気とは違うテストという形式で、青年会議所の基礎知識やあり方など様々な問題を解いて頂く事で、メンバーの皆様が改めて知識を再確認して頂く事が出来ました。



か?現在の尾道青年会議所に足りないところは何か?そして、青年会議所の会員の資質とは何なのか?グループディスカッションを行っていたことができました。

ディスカッションを通して、メンバー同士が想いを共有し議論した事で、今後の青年会議所活動の方向性や価値を共有する事が出来、これからの事業に取り組み姿勢を今一度考える時間になりました。

今回の例会にあたり会員の資質とは何なのか、資質向上をするためには何をしたらいいのか。委員会メンバーで多くの議論を交わし、10月例会を行いました。

10月例会では、第1部の実力テストそして、第2部のディスカッションにおいても参加いただいたメンバーの皆様が想像以上に真剣に例会行事に取り組みんでいただきました。

また、例会を運営して



いく当委員会のメンバーもリハーサルを何度も行い、本番でもメンバーそれぞれが役割を果たし一致団結して行うことができました。これが手作り例会の良さでありメンバーが真剣に取り組んで頂いた一つの理由だと思えます。

今後も青年会議所活動の源であるメンバーが成長する機会を設け、尾道青年会議所全体の成長につなげていく必要があると改めて感じました。

出席いただき

きました皆様ありがとうございました。

(記事…会員資質向上委員会委員長 中島裕一朗)



# circle of smile



11月3日(土)復興チャリティーイベント～circle of smile～を尾道駅前の緑地帯で開催しました。  
平成30年7月8日に起きた豪雨災害によって、私たちの住む尾道も多くの災害に見舞われました。尾道のまちが少しでも早く元気を取り戻し、笑顔の輪を広げていくことを考え、会員資質向上委員会、地域教育推進委員会、ブロックゴルフ大会実行特別委員会の3つの委員会が合同で行う新たな試みでした。

会員資質向上委員会では、尾道市制施行120周年記念に広島東洋カーブとコラボして製作した記念Tシャツや尾道在住のデザイナーがデザインしたチャリティーグッズ(タオル・ステッカー)の販売、そして、当日集まったお客様のおもてなしとして飲食ブースを用意し、西日本豪雨災害の被災者の方々の支援するための義援金を集めました。

当日は晴天にも恵まれ、尾道を代表する祭りであるベッチャー祭りと同日開催だったこともあり非常に多くの方にご来場いただき、テーマでもある笑顔の輪が大きく広がり復興に向けて小さな一助になったのではないかと考えております。

しかしながら、まだまだ復興に向けて時間はかかります。今後も防災の啓発活動も含め尾道青年会議所メンバー丸となって街に対して率先垂範で行動していかなければなりません。

最後になりますが、今回の復興チャリティーイベントの為に協力いただいた関係各所の皆様には厚く御礼申し上げます。  
(記事：会員資質向上委員会 委員長 中島 裕一朗)



## 防災ブース

当委員会は、復興チャリティーイベントの中で防災について、体験しながら学べる場の提供を目的に地域教育推進事業を実施しました。

当日は、イベント開演から終演までお客さんが途切れることなく、子供たちを中心にたくさんの方が“笑顔”で地震体験機やVR消火体験などに参加してくださいました。

この度の事業は、当委員会の最後の事業でした。OBの皆様、メンバーの皆さん、1年間、ご支援ご協力をいただき誠にありがとうございました。あと1か月と少し最後まで全力で頑張ります！

(記事：地域教育推進委員会 委員長 新宅 正章)



## 魚すくい・もの作り

ブロックゴルフ大会実行特別委員会では復興チャリティーイベントにおいて、魚すくいもの作り体験、また今治JC様、因島JC様にご協力いただき、ご当地名産の商品を販売いただきました。

魚すくいではケンスイ様にご協力いただき、鯛やチヌなどの生きた魚を子どもたちが必死に追いかけてまわすなど大変好評でした。

もの作り体験では、JR様には缶バッチの作製や制服を着ての写真撮影、また尾道ダイハツ様には安全免許証の作製やミニカーのプレゼントなど長蛇の列が出来るほど楽しんでいただき、多くの人で賑わうことが出来ました。

また物販していただいた今治JC様、因島JC様にはしまなみ3JC事業としてご協力いただき、義援金もいただきました。本当にありがとうございました。

(記事：ブロックゴルフ大会実行特別委員会 委員長 歌 一行)



11月1日(木)～11月3日(土)にかけてべっちゃん祭りが開催され例年通りJCメンバーは大太鼓、小太鼓の担ぎ手として参加させて頂きました。  
本年は、復興チャリティーイベントもあり人手不足も懸念されておりましたが参加メンバーのみならず、早朝から遅くまで積極的に担いで頂いている姿を拝見してとても心強く感じました。また、一宮神社様、青年会議所OBの方々の交流も深まり有意義なべっちゃん祭りになりましたと思っております。参加して頂いたメンバーの皆さん2日間本当にありがとうございました。



次年度地域活性化促進委員会と致しまして、結束が深まり良いスタートが切れたと思います。  
そして、本年度社会開発委員会の河原委員長を初めとする委員会メンバーの皆様には多大なご尽力、ご指導を賜りました事を厚く御礼申し上げます。  
(記事：2019年度地域活性化促進委員会 委員長予定者 大前慶倫)



## 仮入会研修

10月20日(土)尾道商工会議所にて仮入会員研修を開催致しました。

冒頭挨拶では、安本理事長、山北次年度理事長予定者より仮入会員の皆様へエールが送られました。



JCの組織や決まり事をはじめ、三信条や用語説明など多岐にわたっての研修内容でしたが、参加した仮入会員の皆様は終始緊張した面持ちでしたが、真剣に聴き入っていました。

仮入会員の皆様が今回の研修を受け、意気揚々とJC生活の第一歩を踏み出すことが出来るよう祈念いたします。ありがとうございました。

(記事：拡大研修委員会 委員長 高升 純)

この度(株)ナベシヨ一の代表取締役会長兼社長である渡邊泰博をお招きして、「未来への挑戦」というテーマでご講演して頂きました。会社経営をする上で常に社員と本音でぶつかり合い、1人1人に「責任」という自覚を持たせ、全員で会社をより良くし、いち早く顧客の対応に答えてきた結果が1000億という売り上げに繋がっているのではないのでしょうか。当日は約120名の方々にご来場していただき本場ありがとうございました。今回の渡邊氏のお話が皆様の今後の会社経営の一助になれば幸いです。当委員会は11月例会も控えております、最後までよろしくお祈り致します。

(記事：未来ビジョン委員会 委員長 吉田雄太)



## 防災授業

10月の防災出前授業は日比崎小学校と栗原小学校へ行ってまいりました。こちらの質問に対し児童から意見を聞く場面では、自分たちが考えもつかなかった斬新な回答もあり、逆に多くのことを学んだ授業となりました。

(記事：社会開発委員会 小川 直紀)



## 未来への挑戦

## 卒業生スピーチ



皆さんこんにちは本日のトップバッターで緊張しております。本日はお忙しい中本当にありがとうございます。私もとうとう卒業スピーチをするのだなと思ひ、さみしくなるのかもしれないと半分分の気持ちです。特に本日は今年度の委員会メンバーには忙しい中、全員来てもらえうれしく思っています。

私が入会したきっかけは、尾道に帰ってきてからすぐの事だったので、巻幡先輩に声をかけて頂き、楽しい思い出があるのを声にかけてもらいました。私もJCには興味があり、すぐに返事をさせてもらいました。同級生に今年度理事長の安本さんがおり、JCについて色々話を聞いていたので安心して入会させてもらいました。その後仮入会時の思い出は、皆さんとも同じかもしれませんが、例会の時にスーツで、その場の雰囲気につくりました。正直、今思うと自分が社会の事をわかっていなかった、何も知らなかったなどの後悔が気づくことになりました。

それからJC活動がスタートし、2011年度ですが、まず初めに幹事として、小林委員長のもと尾道経済活性化委員会と同幹事の谷原さんと楽しくやらせてもらいました。小林委員長が、JCは飲み屋でやってみ屋終わる。この時は干預はばかりでついでいくのが精一杯でした。今中副委員長への希望をかなえていく事も大変でしたが、委員会事業自体はガチでやれたことが良かったと思います。

2012年は村上委員長、東日本大震災の復興支援を重点的にやられており、気仙沼に支援に行ったのですが、茶化しているように思われたことで、心が痛かった思い出があります。その時に、村上委員長が皆様に元気に笑顔にさせると頑張ったこと、それに影響されて生懸命にやると頑張ったこと、それが出来るという素晴らしい事業だと覚えていきます。

2013年は横原委員長のもと、西国寺の葦草履架け替え事業があり、このメンバーで頑張ろうとその時に職人気質でJCに目覚めたような気がします。薬を織むのに、機械を導入したところ、教えてくださった方が、心を入れて、精進だめで作りなさいと怒られたのですが、作れたものが実力不足で薬が何年もつかない配でした。横原委員長と毎週木曜日は葦草履の日という事で多くの皆様に協力いただき、心より感謝しております。2014年福田委員長のもと、会員資質向上で新年宴会の司会を担当させてもらいました。OBの前等ではやるのが初めてで、本場に

緊張したことを覚えております。自分自身の滑舌の問題、鼻声なので鼻を手術したりと大変な思いで臨んだことを覚えています。

2015年に念願であった委員長をさせて頂く事が出来ました。総務委員会では自分の色を出せるやり方ができるのは例会で、4月例会が唯一の私の色を出せた事業だと思っております。その中で堀江さんと呼ばれたという企画で、周りからの言葉で色んな喜びがありました。公開例会ではない目立てはいいのではなく、背景や趣旨をしっかりと考えてといった叱咤激励のもと、事業を立ち上げる大変さを経験しました。

2016年中谷委員長のもと副委員長を頑張らせて頂きました。中谷委員長は自分を突き通す言いたいもうまく自分にはない資質で色々な学びがありました。この年は日本遺産についてやりましたが、原田君がプレゼンしたときに、手作りがすごく好きでこだわりは重要で大切だと思えます。

2017年、森川委員会からは、森川委員長はかわいい感じで、誰にも嫌われない丁寧な委員会運営されていたと思います。フロアメンバーとして、なるべく出て、そこに意見してあげることが心掛け、無責任な言い方だけはしないし注意して心がけていました。

本年2018年新宅委員長のもと、最高の一年で、言い尽くせなほど楽しかったです。色々気を使っていた、心に伝えないこと、卒業予定者という事で偉そうに言えますがJCに入ってから絶対どこかで自分に聞かされたこと、宝は見つかる事が出来たのか、という事を考えてもらいたく思っています。形のない宝ですが、皆様がいかでしようか。私はたくさんゲットしてきました。皆さんも宝は持っていると思いますが、焼き付けたいと思っております。1年2年3年で忘れてなくなってしまうようではだめだと思っております。切磋琢磨して自分を追い込んでいっていきましょう。切磋琢磨して自分を追い込んでいっていきましょう。切磋琢磨して自分を追い込んでいっていきましょう。切磋琢磨して自分を追い込んでいっていきましょう。

また、JC活動は40歳という一つの区切りになるのだと思うのですが、40歳で周りのすい人に振り回されることもあると思います。自分の性格とか、会社の規模や、時間をつくりやすい人、作りにくい人とかいって頂きたいと思っております。その練習としてJC活動を通して役立てていってもらいたく思っています。私は自分の100%の力でやってみようと思っております。思い残すことはなく、ちゃんと卒業できることをうれしく思っています。とにかく、前を向いて頑張ってください。本日は誠にありがとうございました。



田中 良幸  
卒業生スピッチの私の順番となりました。

皆さん、こんばんは。とうとう、今日は最後の合同委員会、そして、卒業生スピッチの私の順番となりました。まずは、一昨日、ベッティイベントがありまして、本当に、私も祭りの委員長だつたんでわかるんですけど、二分してからの通常よりも少ないメンバーでベッティ祭りに参加された方、本当にお疲れさまでした。そして、我々の教育推進事業委員会の方に協力していただいた方、本当にありがとうございます。

西の方面に向かってきたときは、全国大会も台風で行けなかったんですけど、同じようにまた台風が来るんじゃないかとちょっとドキドキしながら台風の進路を見ていて、初めの頃は北上するような予測も出ていたので、本当にちょっとドキドキしながら見ていました。

全国大会は、うちの同期にはお寺の方が2名いらっしゃるんですけど、なかなか利益もなく、これも私の日頃の行いが悪かったかなと反省しています。私のJ.C生活を振り返らせていただこうと思います。

やはり、入会の経緯からということになるんですけど、私は、叔父、父といこと全てJ.Cに入っておりまして、私も父となく、こっちは帰ってきたときには、将来J.Cに入らにやいかなのやろうな、という思いでいました。

そんな中、今はちやうど場所が変わっていますけど、新聞で飲んではいたら、池田誠先輩にお会いして、そのときに早速書け掛られまして、胸ポケットから飯入会申込書がその場ですくって出てきました、「いいから書け。」と言われました。ようわからんけどどりあえず書いたら、そのときの拡大委員長が麻生さんだったもので、麻生さんと檀上先輩に、「本当はいんじやないか。とうちの会社まで確認しに来ていただきました。会社の社長等々から、もう1年待った方がいいんじゃないか。」と言われまして、さつぱく入るなら、中学高校の同級生である麻生さんが委員長の時に入っていたいかなと思つて、入会を決断させていただきました。

入会して、1年目の幹事のときに、この年は2011年なんですけど、3月11日に東日本大震災が発生しまして、3月16日に予定されていた3月例会が中止になりました。このとき、国の事業として、「海フェスタ」が尾道に回つてくるということで、ディズニパレード等々をやる予定だったんですけど、海フェスタ自体が取りやめになるということで、J.Cだけの力でディズニパレードを呼んで成功させたというところで、このとき「J.Cつてすごい団体なんだな。」と感じました。

この年、村上忠正先輩と同じ委員会だったんですけど、忠正先輩と美ノ上さんと一緒に、年末に南相馬の方へ一緒に旅行してきました。翌年は村上忠正先輩の委員会に配属されることが決まっていたので、現場の状況等を見たり、どんなニズがあるのかとか、気仙沼にも行つて、色んな事を感じて、忠正先輩と一緒に復興に関わる事業をやつていくような形となりました。

気仙沼には、平成24年のときから、5、6回行かせていただきました。自分が委員長の時にも行きまじましたし、連続して行かせていただいて、気仙沼の方たちとはたくさんコミュニケーションを取らせていただきました。今でもLINEでたまに連絡を取つたりしてはいますが、かけがえのない時間を一緒に過ごさせていただけだと思つています。

平成24年のときは、手塚ブロック会長の補佐として、広島ブロック協議会の方にお願いさせていただきました。同級生の麻生さんが運営専務ということだったので、麻生さんと何度も色んな所に行つて、麻生さんが運転している後ろで寝てしまつたというタメの補佐でしたけど、何とか1年間やり切りました。このとき、我々をまとめてくれたのが小林輝久先輩で、したけど、小林輝久先輩にはその後、私の妻も紹介していただきました。本当に感謝の言葉しかありません。

平成25年、徳永さんの委員会のときだったんですけど、この年は中国地区協議会の国家主権確立委員会に出向していました。津山の地である地区大会でフォーラムを担当する委員会だったんですけど、このときの私の役目は、今、外務大臣をされている河野太郎さんが講師で来られるので、お迎えにあがるということだったので、行つたので、他の人が迎えに行く予定だった竹島問題を語る予定の講師の方がいくら待つても来なくてすね。なんとこの講師の方、ドタキャンしてしまいました。このとき、他の講師の方として、航空幕僚長だった田母神さんと呼んでいた田母神さんに2セット分お話ししていただくという無茶をお願いして、応何とかなりました。田母神さんと河野太郎さんと、エネルギー関係の対談もいただきましたが、講師が来ないという大ピンチをここで経験させていただきました。

講師の方が何をしていたのかというと、新幹線のチケット等も送つていたんですけど、一日勘違いされていた方です。その方のFacebookを見ると、その日の明け方3時くらいまでお酒を飲んでたよと、みんなで憤慨して、訴訟問題にも発展させるかという話もしていたのですが、結局、その方から直筆の謝罪文が届きましたので、これで治めたという形になりました。本当に、こういったトラブルもあるんだと感じながら、中国地区の委員会を務めさせていただけました。

平成26年は、石森委員長のもと、教育関係の副委員長をさせていただきました。忠正委員会のときに、子どもたちを気仙沼から呼んで事業をしていて、将来自分が委員長をするなら教育関係がやりたいなと、当時も考えていました。副委員長だったんですけど、これやりたい、あれやりたいと考えていまして、よく石森委員長とぶつかつて、委員会のときもぶつかつて、当時副理事長だった今中先輩に怒られたのを覚えていまして。石森さんには本当に迷惑をかけてしまったなと思つてんですけど、すみませんでしことめんなさい。

平成27年は、地域交流委員会の委員長を拝命しました。委員長としていきなり1月の新年宴会の担当だったんですけど、病気をしまして、新年宴会の後に体を引きずりながらやりましたけど、うしようもなくなくて、3か月間ほとんど休ませてください。その間、山本副委員長には本当に迷惑をお掛けして、あと、村上忠正副理事長にも、今でも頭が上がりません。本当に、迷惑をお掛けした委員長の年だったと思つています。

委員長の年だつたと思つたんですけど、この年は本当に色々、病気がありました。それ以外にも、ちやうど体調が悪かったりして、激しかったりもあつたんですけど、何とかやり切つて、本当にこの年は悔し涙も流しましたし、最後に終わったときの嬉し涙も流しました。仕事でなかなか悔し涙、涙を流したことはないんですけど、大人になつてこじった経験ができるのは、やはりJ.Cしかやらないんじゃないかと強く思っています。当時、委員長をやつたときは病んでましたけど、今思えば、本当に2年間やつてよかったなと、本当にみんなに支えられたなと思つています。

平成28年は、今副委員長のとこで拡大研修委員会だったんですけど、正直、理事明けだったのと、この年に結婚したこともありまして、委員会には出たんですけど、あまり拡大の方に付いていって、ちやうどこの迷惑を掛けてしまったなと思つています。日本の方にも出向して、加度さんと政成さんと一緒に宮古島に行つたりして、色んないい思い出を作らせたのも出向して、これも正直ほとんど付いていただけで、あまり活動してなくてですね、楽しかった思い出しかないです。本当にすみません。本当に加度さんと政成さんは大変だったんだろなと思つています。付いていくのが精いっぱいでした。

平成29年には、会員資質の副委員長をさせていただきました。森川委員長と色んな話をしながら、なかなか方向性が定まらず、結構苦労をした覚えがあります。なんと、か最後に事業を終えられたのでよかったなと思つています。先日、一緒に卒業祝いということでお酒を飲ませていただいて、本当にいい委員会だったんだなとつくづく感じました。ありがとうございます。

今年、新宅委員長のもと、地域教育推進委員会でもやらせていただいて。本当に気を遣つていただけてありがとうございます。新宅委員長は早生まれで、同級生なのにまだ来年もあるということ、大変なんですけど、もう一年、何とか頑張っていただけだと思います。こんなJ.C生活で取りとめもなかったんですけど、最後に伝えたいことだけ伝えさせてください。終わろうと思つています。

今日は出席率がいいんですけど、例会等の出席率が最近ちよと低いときがあるのかなと思つています。10月例会のときに、私がミスをしていて出欠を出してなかったんですけど、すぐに美ノ上さんから「出る。」とお電話をいただきました。やはり、こういふこと(二つ)が大事なななななと思つています。最近は何でもLINEで簡単に出入り確認ができてしまいます。私が幹事のときはLINEがなかったの、一人一人に電話を掛けたりしてはいたんですけど、最近はそのようなことが減つてきているのではないかと思います。そのときには出られなくて、一回電話がかかつてきたら、「ああ、次は出んやないけん。」人間ですから思つたんだと思つています。そういうことを続けていけば、全体的な出席率、委員会だけではなく事業もそうです、例会も合同委員会も、みんな出席率が上がつていくんじゃないかと思つています。やっぱ便利なものに頼りすぎると、難しくなつていくのではないかと思つています。

もう一つ、私の履歴を見てもらうと、出向を4回させていいただいているんですけど、出向をして色んな人に会う機会をいただきました。本当に勉強になりました。

最近ちよと感じるのが、出向者報告というのが合同委員会や例会のときにあるんですけど、ほとんど誰もしゃべりません。私が出たときは、必ず行つたんだけどな、と思つています。今年も池田副会長くらいしか出向者報告を話してないの、正直なところ、誰がこの委員会に出向しているのか、池田副会長以外わかりません。やはり、会を代表して出向しているのですから、若い方に対し、出向したときどういふことがあつて、どんないいことがあるんだよ、ということ伝えていくのも、出向した人の責務だと思います。そうすることによって、今後若いメンバーの中から出向したいな、と思う人が出てくれば、それはいいことだと思つています。今のままだと、若いメンバーが委員長から「出向して。」と誘われても、「出向して何？」と感じると思つています。若いメンバーに対してもしっかりと伝えていってほしいと思つています。

ちよと最後に生意気な口をきいてしまいましたけど、本当にJ.Cに入つてよかったなと思つています。これからも皆さんが益々活躍されることを祈念いたします。ありがとうございました。

ちよと最後に生意気な口をきいてしまいましたけど、本当にJ.Cに入つてよかったなと思つています。これからも皆さんが益々活躍されることを祈念いたします。ありがとうございました。

HP facebook

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

過ごしやすい季節もあつたという間に肌寒くなつてきた今日この頃です。今年のプロ野球も終わり日々の生活にぼっかりと穴が開いたように感じてしまいます。また来年に向けて各チーム準備期間に入るわけですが、この準備から来年のレースに響いてくるものと思われま。段取り八分仕上げ二分という言葉があるように、準備でやるのが山ほどあると様々な取り組みをするときに感じます。これまでどちらかという行き当たりばったり、出たこと勝負の自分ですが、準備が整った中での出たこと勝負こそがより良い結果が出てくるものと思つています。今年もあつた冬支度、年末年始支度こつこつと掃除、準備…と思つていますが、毎年同じような年越しをしているように感じる今日この頃です。いつもJ.Cライフをご拝読いただきありがとうございます。(記事:高山 敦好)

編集後記

# 卒業生スピーチ



みなさんこんにちは。正直いまして、卒業生スピーチをするというよりも、まだ、卒業をするという気分がなくて、本当に今日も大前セクが送ってくれる途中に、どんな話を聞きたいかと尋ねたところ、「武勇伝か何かをしゃべったらいんじゃないですか？」と冷たく言われました。しかしここ最近、総務広報委員会さんが、とても頑張られているおかげで、JＣライブ等も一般の方まで拝読されるようになって、私が理事長をしていることを、しばらく会っていない昔の同級生の友達から、「何か青年会議所の理事長をやっているんだね。」と言われ、どうして知っているのかを尋ねたら、「FacebookでJＣライブをみたんだよね。」と言われ、あまり下手なことは言えないなと思いました。

私も十二年JＣ活動をさせて頂いて、振り返ればここ四年は本当に濃い月日を過ごさせていたのだと思います。私が入会した年は、ちょうど父が他界した翌年で、二十九歳での入会になります。その頃は、JＣの事を全く知らなかった状態でした。当時の生活は、昼夜真逆の生活で、工作上、夜の十時から朝の九時まで仕事をしている状況でした。おかげで、地元の人達ともかわりなく、ただただ、仕事をこなすのに精一杯であつた記憶があります。また当時は、腎臓結石を患い、赤ワインのような尿が出ていたり、毎日体調がすぐれない状況でした。そのような中、推薦者である山路先輩が毎日通つてこられてましたが、仕事の都合上、寝ている際にお越し頂くことが多く、会えな

いことばかりでした。入会までの際、二、三回しかお会いしていない気がします。ただ、私と話をするよりも、母であつたり、家族とよく話をされてとても仲良くなり、最終的に家族の方から山路先輩はとてもいい人だからと、家族が懐柔されたといえますか？ そういった拡大の手法もあるのだなと。直接行くよりも、家族からくどいていくというのも一つ、来年以降活用されてみてはと思います。僕みたいに引つかかる人もいるかと思えます。

その時は、例会合同委員会月二回だけ出席したらいよいよという声掛けで、私も入会を決意しましたが、今思えば、私自身も同じ生活の繰り返しであつた時期で、「何をどうしていったらいいんだろう」と悩んでいる時期で、何かのきっかけで、それを変えたいなと思つていた時期かと思えます。ただ、数年は寝起きで例会にいき、アフターもいかず、帰つてすぐ仕事をするようなJＣ生活でした。当時の先輩方にはとても気を使つて頂いたにも関わらず、本当にお役に立てなかつたと思えます。そんな感じで約三年間を過ごしました。そのような中、スイッチが入つたのは四年目の拡大研修委員会です。この時は麻生さんが委員長で、本多先輩が副委員長、幡中先輩が副理事長というメンバーで、この時初めて委員会から、アフターまで参加させてもらい、本当に一生懸命拡大活動をした覚えがあります。そのような中、理事に押しつけてくれたのが麻生さんでした。選挙で初当選して、翌年は初理事で、副委員長という役でした。当時、河井先輩が委員長で、今思えば初理事の自分は、本当に迷惑をかけて、申し訳なかつたと思えます。経験された方も多々いるかと思いますが、副委員長は本当に難しく、委員会を引っ張っていく、まとめいくのが役割なのに、初めてのことでどう

すればいいかわからなく、とても悩んだ気がします。経験上、皆さんもそうだろうと思えますが、翌年の委員長時代が一番つらい時ではないかと思えます。それだけに井上さんに頑張っていただきたく思います。あの時に頑張つていただきたく思います。それから、L O Mでは理事を受けない時期もありました。二年理事をしたあとは、家族の病気や家庭事情もあり、真剣にJ Cをやめることをかかんがえました。入会二年目、三年目も同期と話し合い、「やめようかな。」と退会を考えた時期もありましたが、「やめな」といけません。と考えたのは、委員長あけの時期でした。その際にも、でられる範囲内ででたらいいよと様々なアドバイスをいろいろな方からもいただきました。その中で、安部先輩から突然電話があり、お昼ご飯を食べにしようとの誘いで、行くと出向の話でした。日本への出向で中小企業の経済を活性化する委員会で、ロシア等の海外に行かないといけないという話で、当時は東京にはよくいかせてもらいました。そして、その翌年平成二十七年、私のJ C生活ががらつとかわつたのが、中国地区の委員長に出向をさせて頂いてからです。やることは、L O Mの委員長のほうが大変かと思いますが、ただ移動距離が本当に長くて、あの時から片道三時間だったらノンストップで運転して帰ろうと思ひ、ただ四時間になつたらちよつとしんどいので、だから、事務局の林さんからも、安本さんの感覚がずれているよねとよく言われていました。当時は、森石先輩と巻幡さんが、委員長幹事ででてくれて、皆さんは本当に巻幡さんは怖いとおもわれるかもしれませんが、私も当時は親しく接していただけではないので、怖く感じていたのですが、

巻幡さんは、呉まで飲まずに運転してくれて、運転して帰つてくれて、本当に僕にとっては、あれは奇跡だと思ひました。ただ、巻幡さんがでてくれたのは、あれ一回きりでした。(笑)巻幡さんがウーロン茶しか飲まないのは、僕は今までで二回しかみたことないです。ただ、巻幡さんは本当によく気がつかれてくれました。本当にありがたうございました。遠い所は、私もよくよく一人で行つておりました。鳥取は四時間。萩は、冬にノーマルタイヤでいつていました。その際、トラックが道で横転しているのを見て、よくこの卒業生スピーチでとりあげられていた噂の黒いハイエースで滑りながらいつていました。まっ、本当にこれも一緒にきてくれませんでした。

そんな中翌年に麻生さんからL O Mの専務の話を受託、L O Mの運営をこうやっていきたいという話を受けて、即答させて頂きました。本当に、麻生さんは、普段はおもしろおかしくしゃべつて、雰囲気盛り上げてくれるのですが、理事長時代は、とても厳しい方だなと感じました。当時は、毎朝七時に電話をしていました。今まで、こんなに特定の人と電話で毎日話をしたことはなかつたのですが、本当に麻生さんはすごい方だなと感じました。去年もよく麻生さんのおばあちゃんのだりの話をきいて、あのよ

うな面白い方だというイメージを持たれている方が多くいるかと思いますが、本当は大変真面目な方です。(笑)そして、昨年は太田理事長のもと副理事長をつとめさせて頂きました。去年まではほとんど話をした事のない関係でしたが、僕が入会したときから、すでに大変活躍されていた方で、本当によくお酒を飲ませて頂き、いい経験をさせて頂きました。私の方が、年齢が上なのですが、本当によく接して頂き、いい経験をさせて頂き、ありがたうございました。そし

た、巻幡さんは、呉まで飲まずに運転してくれて、運転して帰つてくれて、本当に僕にとっては、あれは奇跡だと思ひました。ただ、巻幡さんがでてくれたのは、あれ一回きりでした。(笑)巻幡さんがウーロン茶しか飲まないのは、僕は今までで二回しかみたことないです。ただ、巻幡さんは本当によく気がつかれてくれました。本当にありがたうございました。遠い所は、私もよくよく一人で行つておりました。鳥取は四時間。萩は、冬にノーマルタイヤでいつていました。その際、トラックが道で横転しているのを見て、よくこの卒業生スピーチでとりあげられていた噂の黒いハイエースで滑りながらいつていました。まっ、本当にこれも一緒にきてくれませんでした。

た、巻幡さんは、呉まで飲まずに運転してくれて、運転して帰つてくれて、本当に僕にとっては、あれは奇跡だと思ひました。ただ、巻幡さんがでてくれたのは、あれ一回きりでした。(笑)巻幡さんがウーロン茶しか飲まないのは、僕は今までで二回しかみたことないです。ただ、巻幡さんは本当によく気がつかれてくれました。本当にありがたうございました。遠い所は、私もよくよく一人で行つておりました。鳥取は四時間。萩は、冬にノーマルタイヤでいつていました。その際、トラックが道で横転しているのを見て、よくこの卒業生スピーチでとりあげられていた噂の黒いハイエースで滑りながらいつていました。まっ、本当にこれも一緒にきてくれませんでした。

て、私も理事長を最後の年にさせて頂きまして、このように皆さんの前でお話をさせて頂くことは多々ありますが、実はわたくしは大学時代の友達ですら、自分から、話しかけて友達になったことがなく、極度の人見知りです。ましてや自分が人前で話すような人間になるとは、本当に考えられませんでした。ただ、昔はもつと三分間スピーチとかをやっていた、今のように何かをしゃべれば、皆が笑ったりしてくれるようなことはなく、何をしゃべっても、皆が無表情で、じつと三分間見つめられていました。今はほのぼのと聞いていられるけど、ねつ、慎也さん(笑)もう残りの三十秒をシーンとしたまま時間が経過したとか、そのような経験を、よくよく人前で話が出来たようになってきたのかなと思っています。本当に、私が今一番不安なのは、来年直前理事長という立場であり、OB特別会員というのは、本当に気がかりで、特会というのは、毎回例会を行った際に現金で払うのかなとか、いざ、自分がなったら、すごく悩むんですよね。そんなちっけな悩みしかないのかもしれないませんが、来年一年をボーンナスイヤーというものを頂いている分、卒業するという感覚もなく、卒業生スピーチらしいことは、いえないので、最後に、井上君からは理事は経験しなくてもいいのではないかと話もありましたし、でも他の卒業予定者の方は、やっぱり理事をやってほしいと、それぞれが経験した想いをいわれていましたけど、私はできればやってほしいと思っています。ただ、入会して歴が短い人、長い人とあり、いろいろな方がいると思いますが、長い人は、ずーと卒業まで突っ走るのは難しいかと思えます。ただ、さぼるのではなくて、役職役職で力を抜けるところは抜いてやっていけばいいと思いますし、ただ井上君がいついたように、大きな壁を乗り越

越えたときに得られるものは本当に多いと思います。自分もJICに入っていないけれどうなっていたのだらうとすごく思いますし、誘っていたらどうかとすごく思います。昔は、残りあと何年あと何年と思っていたのが、ここ数年は今年でおわりだなくとか、感じるようになったのは、本当に多くの方との出会いがあつて、いい意味で居心地がよくなうて、JICに来るのが楽しみになりました。そういうように考えるきっかけくれたメンバーであつたり、先輩であつたりを見つけたことは、JICでしかできないことなのではないかと思えます。ですので、それぞれが残された現役の時間を有意義につかって、JICという組織をつかって自分の成長につなげて頂ければなあと思います。本当にとりともない話になったかと思いますが、これをもって卒業生スピーチにかえさせていただければと思います。ご清聴ありがとうございます。



麻生 裕雄

皆さん、こんばんは  
本年度、最後の卒業  
予定者スピーチというこ  
とで重責をいただいておりますが、どうぞよろしくお願います。まずは、プロフィールを事務局の皆さんに作成していただき、ありがとうございます。資料にも記載されておりますが13年間在籍させていただきました。そして新たな13名のメンバーを推薦することができました。残り在籍年数が少ない方もおられるかと思いますが、皆さんJICライフを楽しんでください。

JICに入会するまでですが、私が尾道に戻ったのが26才の時です。京都で僧侶の資格を取り西國寺の副住職として戻りました。JICのことは全く知らなかったのですが、父

が若い頃に何かの団体に所属して何か活動していたのかなあとということぐらひは記憶にありました。28才の時、当時の拡大担当者から入会の案内をしていただき、その際は父が「30才までは入会させない」という形でお断りをしたのですが、千光寺の多田先輩と朝日屋の鍛冶川先輩に半ば強引に入会させられたことを覚えております。JICに入会したものの、社会経験の浅い私にとっては、いつい何の活動をしているのか、正直数カ月間わかりませんでした。またJIC用語というものがあつたように思います。しかし、も時間がかつたように思います。しかし、先輩からの食事の誘いや、色々な話を聞かせて頂き、段々と尾道のために限られた時間でできることをしていこうということが理解できました。

2008年村上弘二委員長の際に、委員会メンバーが本当にお酒を飲むことが大好きで、この年は一年を通して夜遅くまでよく飲んでました。村上弘二委員長はお酒を飲むとすぐに顔が真っ赤になるので、お酒が弱い先輩なのかなあと最初は心配してました。村上弘二委員長がお酒をコミュニケーションのツールとして上手に使い、二年間委員会をまとめ上げていたことが強く記憶に残っています。そしてその絆は今も続いております。

その後、2009年度・2010年度に委員長として活動させて頂きました。配属された委員会には多くの先輩、理事を経験された方ばかりでしたので、はつきり記憶にならぬくらい我武者羅に動いていたように思います。また委員長という理事としての自覚も自分にとっては必至の思いで活動してましたので、皆さんに着いていくことが一杯だったように思います。私が理事長まで経験させて頂いたこ

とのきっかけとなつたのは、2012年に広島ブロック協議会の会長をされた手塚先輩の運営専務を任せられたことだったのかも知れないかという依頼をいただき、承諾をしました。が、広島ブロック協議会というところがよくわからないままお受けしたように思います。1年4ヶ月手塚先輩の隣で一緒に活動ができたことは生忘れることないと思います。手塚先輩には私自身勝手なイメージを持っていました。それはとてもお話が上手で、いつでもどこでもすぐに立派なお話をされる方なんだというイメージです。しかし、そばに居りますと、会議前の車中でお話をされる原稿を何度も読み返している姿があり、影での努力を怠らない方なんだと感銘を受けました。私が理事長をつとめさせていただく際も参考にさせて頂きました。が、到底底元にも及ばないものになってしまいました。人前で話をする、仲間に理解してもらおう、共に行動をすることの大変さ大切さを感じた1年でした。しかし、精一杯させていたことで青年として親として地域のリーダーとして成長できる機会を得ることができたように思います。そして何よりも様々な役職を経験することによって、相手の立場になって考えることが出来る思いやりのある優しい人間にもなることができるのではないのでしょうか。

最後になりますが、13年間JICライフを過ごすことができたのも家族の支え、両親の理解、そして先輩や仲間が近くにいるも居てくれたからだと思えます。本当に感謝ばかりです。40歳を過ぎて、JICで経験したことを活かすことできるのかどうか、新たな挑戦をしていきたいと思えます。悔いのないJICにしてください。本当にありがとうございます。